
教育総合センター だより

NO. 125

平成 24. 9. 1

連 携

尼崎市立武庫東小学校

校 長 大楠 正治

学社連携、地域との連携など、最近は「連携」という言葉が身の回りに増えてきたように感じます。あるべき「連携」の仕方とは、と考えてみました。

1 学社連携

学社連携とは、学校教育と社会教育が連携して、子どもたちの学力向上や健全育成を図っていくということを目的として、連絡を取り合い、協力して活動しようということであろうと思います。

例えば、出前授業を例にとってみると、体験活動をベースとして、子どもたちの知的好奇心を満足させてくれるようなものがたくさんあります。先日、本校で実施していただいた出前授業もすばらしいものでした。

しかし、出前授業は、その内容や教科指導との関連性、指導の適時性などをよく考えて取り組まなければなりません。「先に連携ありき」ではなく、しっかりとした『バランス感覚を持った連携』が必要であろうと思います。

2 地域との連携

本校は、今年度から学校便りや校長室便りを教頭や私が直接、地域に出向いて配布することにしました。これまでは、恥ずかしながら、地域振興センターにお任せしていましたが、耐震化工事にともなって、お知らせやお願い、お詫びなどの文書が激増したために変更したわけです。

顔を合わせて文書を配ると、当然、会話が



生まれます。当たり前のことですが、この会話がとても大切だということに改めて気づかされました。地域での子どもたちの様子、人々の願いなど、地域の生の情報は、会話からしか手に入らないのです。

学校の取組や考え方にご理解を示して下さい方、厳しいけれどなるほどと思えるようなご指摘をいただいた方。地域とは、『顔でする連携』が重要だと実感しました。

3 異校種連携

本校は、耐震化工事の影響で武庫荘総合高等学校のグラウンドを昼休みにお借りしています。先日、縄跳びをしている子どもたちがいました。よく見ると高校生が縄を回してきていました。

総合高等学校の校長先生は、「そんな『自然発生的な連携の芽』を大切にすると、いろいろな連携へ広がっていくかもしれませんね。そうなるといいですね。」とおっしゃいました。高かった敷居が、また一段、低くなったように感じました。

異校種の連携は、ただ無目的に子どもたちを交流させることから始めるといいのかもしれませんが。

「連携」は学校外との連携とは限りません。教師同士が手を「携えて」課題解決に臨むこと、学年ごとの指導が「連なっている」こと。そんな『校内連携』をもう一度見直し、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

◇◇◇ 1年目教員研修 ◇◇◇

1年目教員に対しては、校外研修が25日間あり、その中で尼崎市が実施する研修は社会体験研修を含めて18回実施します。その研修では「尼崎を知る 尼崎を見つめる」をテーマとし、尼崎への愛着、教員としての自覚を高め様々な教育課題についての見識を深めるなど実践的な指導力と使命感を養う研修を実施しています。その中から2つの研修の様子を紹介します。

【第1回1年目教員必修研修】(4/24)

尼崎市役所の都市魅力創造発信課吉田淳史課長を講師に迎え、ご自身が環境美化担当時に取り組まれた指定ゴミ袋の導入体験から、誠意を持って職務に望む大切さや環境、歴史、「カタカナ2文字で省略される世界の都市はリオ(リオデジャネイロ)、ロス(ロサンゼルス)とアマ(尼崎)の3都市で素晴らしい都市ばかりです。」など楽しい話を取り入れながら、変化、改善してきた尼崎の魅力について講演していただきました。



この講演で尼崎出身の先生、尼崎出身でない先生とも尼崎に対しての興味や好意を持ったとの意見が多く出ていました。

また、センター指導主事からは尼崎市の教育的課題について学力・生活実態調査等のデータをもとにした説明や、情報の取り扱い、目標や目的を持った学級経営など多様な研修を受けました。アンケートには、実践的のためになったとの意見が寄せられていました。大変盛りだくさんの内容でしたが、先生たち全員が生き生きと研修を受けていました。

【第3回1年目教員必修研修】(6/19)

センター所長あいさつの中で、3年後に目指すあなたの教師像はという問いにアンケートの中で「頼られる教師になりたい」など前

向きな教師像を多くの先生方が書かれていました。

生徒指導・適応指導担当指導主事より「生徒指導の考え方と進め方」について新任時代からの各学校での実践例を具体的にわかりやすく話していただき、新任教員に望むことで「さしすせそ」(最初が肝心、慎重に、素早く対応、誠意を持って、組織的に)、「ほうれんそう」(報告、連絡、相談)が大切であると伝えていただき、先生方も印象に残られたようです。

昼食後すぐには、日本民謡協会の寿扇会のみなさんによる「コキリコ節」「ソーラン節」「花笠音頭」を披露していただき、会場から大きな拍手が沸き起りました。



宝塚ホテルサービス(株)取締役魚田勝弘氏「より良い人間関係を築くためにー接客とクレーム対応ー」の内容で講話をしていただきました。接客やエゴグラム、クレームについてご指導いただいたこと、特に「クレームには期待が含まれており、その素早い改善は逆に信頼を生む機会となる」といった話は、普段の勤務に即実践できる場所が多く、客観的な視点をいただき、とても参考になったと思います。



また、ホテル(企業)の方からお話を聞くことで視野を広げることができ、よい刺激になったと思います。

第1回、第3回の研修では小グループに分かれてのグループ研修を行っていますが、回を重ねるごとに一歩ずつ成長している様子が強く感じられました。

(研修担当係長 土高 伸也)

☆☆☆☆教育相談の現状と今後の課題☆☆☆☆

教育総合センターの2階には、「教育相談担当」の窓口があります。こちらでは、尼崎市在住、在学の幼稚園・保育所（4歳）から高校生（18歳）までの子どもに関する、子ども本人、家族、幼稚園・学校の教員などからの相談に応じています。

昨年度の面接相談件数（延べ件数）は3066件で、新規の面接相談件数を見ると387件でした。それぞれの相談内容には、心理的・発達の・家庭的・社会的等、様々な要因が関連しています。個々の子どもの特性・状況に応じて、学校やスクールカウンセラー、訪問指導員、はつらつ学級、ハートフルフレンド、子どもの育ち支援ワーカーをはじめ、学校教育部の生徒指導・適応指導担当、特別支援教育担当や家庭児童相談室、西宮こども家庭センター、医療機関等とも連携をしながら対応しています。

<昨年度の面接相談対象者内訳>

区分	合計(%)
就学前	9.3
小学生	54.0
中学生	21.2
高校生	5.4
教員等	10.1
合計	100.0

ある事例をひとつ紹介します。学級集団の中で適応できず、すぐに教室を飛び出してしまふ子どもが、小学校からの紹介で、保護者とともに来所しました。子どもへは遊戯療法を、保護者へは面接を、それぞれ並行し、継続して行くこととなりました。当初は落ち着きのなかった子どもが、遊びを通して相談員との関係が深まるにつれ、他者との関わり方に変化が見られ、それに伴って集団の中で適応できる場面が増えていきました。一方、保護者は、面接によって、子どもへのより望ましい関わり方を見つけていきました。また、

保護者の了解を得た上で、学校へも子どもの指導に役立てていただくように、見立てや状況などを伝えていくようにしました。このように、保護者、子どもの面接相談のみならず、子どもにとって大切な場所である学校で、教育相談の取り組みを生かしていただけるように努めています。

また、最近では、発達の課題を有する子どもの相談が少なくありません。発達の課題を有する子どもの理解を促すため、保護者の思いや願いを学校に伝えたり、逆に学校からの指導方針や支援の方法を、相談場面でわかりやすく保護者へ伝えたりということもしています。守秘義務を守りつつ、当センターの教育相談が、学校と保護者の架け橋となることは、担うべき大切な役割であると考えています。

不登校の対応については、初期段階での対応が非常に重要だと言われています。各学校においても、支援組織を整備し対応されていることと思いますが、依然として不登校は多いと言えます。不登校の多様化で対応が難しくなっていることが、大きな要因と考えられます。

今後も、学級担任が一人で問題を抱え込むことのないよう、生徒指導担当や不登校担当の教員等が中心となって、他の教員や関係機関との連携を図りながら、子どもや保護者への支援を進めて行って欲しいと思います。

そのために「教育相談担当」は、学校との連携をさらに深め、各校の教育相談体制づくりを支援してまいります。



(教育相談担当係長 井上 満夫)

教育情報コーナーへどうぞ

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。ぜひお気軽にお立ち寄りください。今回は、毎日の授業にすぐに役立ち、参考になる本を新刊の中からご紹介します。
(情報コーナー担当・幾田)

『**板書でわかる国語 教科書新教材の授業プラン 小学校1年～6年**』全6冊
筑波大学附属小学校 桂 聖編著／東洋館出版社

学習指導要領の改訂により、教科書も新しく変わり、各社新教材が取り入れられています。本書では、新教材の授業が具体的に見えるよう、作品の構成から単元の指導計画まで示されています。また、板書例も授業に役立ちます。

『**活用力・思考力・表現力を育てる！365日の学習指導案**

1・2年 3・4年 5・6年』全3冊

志水 廣監修 前川公一編著／明治図書

本書では、学習指導略案の形式により、わかりやすく数学的な活用力・思考力・表現力を育てる手立てが示されています。若手の先生方からベテランまで、教材研究にも役立ちます。

『**実験で実践する魅力ある理科教育 小中学校編**』

川村康文、山下芳樹、秋吉博之、荻原 彰共著／オーム社

子どもたちに、理科の楽しさ、理科実験の面白さを伝えるための一冊です。
楽しく学べる工夫とそして、よく考えられた実験が充実しています。

視聴覚教材・教具の活用を推進します

本年度は、特に16ミリ映写機の講習と16ミリフィルムの活用に力を入れています。例年のように、講習会（7月11日、8月22日、11月14日の3回）を開き「認定書」を発行しています。また、必要に応じて「出前上映会」の要望にもお応えしています。

「認定書」をお持ちの方が居られない処には、講習会を兼ねて「出前上映会」を行います。お問い合わせください。16ミリフィルムは370巻以上あります。

(自然・歴史)「附子 狂言のおもしろさ」「高瀬船」「ゲンジボタル」・(平和)「おこりじぞう」「トビウオのぼうやはびょうきです」・(体育)「よみがえる子どもたち」・(家庭)「わが家の団らん」・(災害)「大地震が学校をおそった」・(人権)「星がきれいに見える街」・(国際)「朝鮮通信史」・(劇映画)「どうぶ屋かあさんとその子どもたち」「きみが輝くとき」・(動画)「ごんぎつね」「銀河鉄道999」「二十四の瞳」「スイミー」「おにたのぼうし」「ジャングル大帝」「忍たま乱太郎」「泣いた赤鬼」等

(小学校6学年教材 狂言「柿山伏」のDVDを購入予定！)

